

「実り」の2学期へ 日々の積み重ねを大切に

真夏のような日差しが続いていますが、朝夕には秋の気配も感じられるようになりました。今年は「危険な暑さ」が続いた夏休みでした。体調管理に苦労された方も少なくなかったと思います。また、異常気象による大雨と合わせ、『南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）』が発表されるなど、心配事の多い夏休みだったようにも感じます。一方で、オリンピックが開催された夏でもありました。活躍する選手の姿から、たくさんの元気をもらった方もいたのではないのでしょうか。28日からはパラリンピックが始まっています。陸上、卓球、水泳には知的障害の選手も参加します。多くの方に注目していただき社会全体の関心が高まることも期待します。

さて、6月の学校便りでお伝えした、校長室の時計草（パッションフルーツ）ですが、「実は成らないのですか、と質問を受けました。そこで、調べてみると人工的に受粉できることが分かり試してみました。時計草は1日しか咲かない『一日花』です。校長室では9時から10時頃に開花し、夕方6時頃には閉じていました。一日不在の日も少なくないのですが、6月から7月にかけて5回受粉することができました。そうしたところ、5つ全てが結実し、6～5cm程度の表面が滑らかな薄緑色の実が成りました。水やりをしながら気付いたことですが、実は受粉して1週間から10日で一気に大きく膨らみ、その後は大きさの変化はなく2ヵ月ほどかけて熟成が進めます。緑から濃い紫へと色づき、実の表面にシワができてきたら収穫だそうです。改めて「やるべき時にやる（タイミング）」ことと日々の積み重ねの大切さを実感しました。そして、八丈島に分教室を置く本校ならではの特色ある活動として生かせないかと、日毎に色づいていく「実」以上に夢を膨らませています。

2学期が始まりました。修学旅行や移動教室など大きな行事も予定されています。また、3年生は進路につながる大事な時期になります。一人一人が日々のやるべきことを確実にいき、毎日の学びを着実に積み重ね、大きな成果を实らせることができるよう、一日一日を大切に努めてまいります。



学校もDX

7月に2年生の生成AIの授業を参観しました。始めに生徒たちは、AIが作詞作曲した歌や、描いた画像を通してAIの可能性を体験します。次に、洗濯機にもAIという表示のボタンがある事例など、日常的に使っている電化製品にもAIが使われていることを学びます。そして、いよいよ実際に生成AIを操作します。AIは、生徒たちが入力した質問に対し瞬時に回答を表示します。この時、その便利さだけでなく『生成AIの回答が必ず正しいものではない』ことも体験します。あらかじめ用意されている質問を入力することで、生徒たちに判りやすい「ハルシネーション（AIが事実に基づかない情報を生成すること）」を意図的に起こさせます。こうした学習を通して、生成AIを活用する際には、自分自身の判断が欠かせないことを体験的に学んでいました。

改めて、私たちの周囲を見まわすと、生成AIだけでなく、買い物や交通機関利用時のキャッシュレス化（現金と使わない生活）、ペーパーレス化（スマホやタブレット末が前提となり、縦読み漫画の出現など書式も変化）、そして最近では東京都を含めた各地で、自動運転バスの運行や実証実験が急速に進展拡大するなど、DXによる生活の変化のスピードは益々加速しているように感じられます。このように、私たちを取り巻く生活環境が急速に変化するなか、生徒たちには変化していく社会に必要なスキルを具体的に学ぶことが求められています。だからこそ、日々の授業や行事など様々な学習場面において、ICT機器を使ってみる、DX化にチャレンジする、という姿勢が重要になってきます。そうした取り組みを、学校と家庭が連携しながら積極的に進めていきたいと考えております。新しいことを始める際は負担や不安もあります。ですがそれを乗り越えた時は、必ず新たな景色が広がります。チャレンジすることで、生徒たちによる思いもよらない活用が生まれることも期待しています。引き続き本校の教育活動への御理解、御協力をお願いいたします。